

列王紀上、下 結晶の学び

標語

一見すると、列王紀上、下はイスラエルの王たちの歴史です。実は、列王紀上、下は聖霊の靈感の下で、神の永遠のエコノミーと関係がある方法で書かれました。神の永遠のエコノミーは予表を通して明らかにされ伝達されており、地上で神の選民によって遂行されます。

神の宮としての召会を建造するための真のクリスチャンの命は、十字架につけられ復活したキリストの命です。彼は命を与える霊としてわたしたちの存在の中へと建造され、それによってわたしたちは彼の復活の力によって彼の死に同形化されて、日ごとに新しくされ、栄光から栄光へと造り変えられて、召会の中に彼の栄光があるようにします。

神の栄光（光輝の中で表現された神）が神の宮を満たしました。このことが表徴するのは、神の栄光が、神のエコノミーと内在的な関係があり、聖徒たちの中へと造り込まれ、神に、召会の中で、またキリスト・イエスの中で、栄光がすべての世代に至るまであるようになり、そして新エルサレムの都全体が、永遠にわたって神の栄光を帯び、この栄光は、都を通して輝き出る神ご自身であるということです。

新約における勝利者は王であるべきです。彼らにはあふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受けて、命の中で王として支配しています。命の中で王として支配するために、わたしたちはその霊の統治の下にいる必要があります。またわたしたちは主の臨在を享受する必要があります。主の臨在は、主の権威、繁栄、祝福を含んでいます。

列王紀上、下における、神のエコノミーに関する内在的な啓示は、
予表を通して明らかにされ伝達されている

聖書：エペソ 1:10, 22-23. 3:9. コロサイ 2:9. 3:11.

I テモテ 1:4. 列王上 2:11-12. 6:1-2

I. 聖書は神のエコノミーの書です——創 1:1, 26-28. 啓 21:1-2, 9-11 :

- A. 全聖書は、旧約も新約も、まず神のエコノミーの絵であり、次に神のエコノミーの完全な定義と成就です——エペソ 1:10. I テモテ 1:4。
- B. 聖書は神の永遠のエコノミーに関する神聖な啓示の記録であり、キリストは神のエコノミーの中心また実際です——ヨハネ 14:6. コロサイ 1:15. 3:11 :
 - 1. キリストは三一の神の具体化であり、召会はキリストのからだです—— 2:9. エペソ 1:22-23。
 - 2. キリストと召会は、聖書の基本的な構造です——エペソ 5:32。
- C. 聖書のかぎである神のエコノミーとは、三一の神が彼の計画と案配を持って、ご自身を彼の神聖な三一の中で、彼の選ばれ、贖われ、再生された人たちの中へと分与して、彼らの命、命の供給、すべてとなって、彼らを彼の団体的な表現とならせることです。この団体的な表現は、初めはキリストのからだであり、究極的には新エルサレムです——エペソ 3:9 :
 - 1. わたしたちは神のエコノミーが聖書のかぎであることを見るなら、聖書のあらゆる書を学ぶ時にこのかぎを用いるでしょう。
 - 2. わたしたちがこのかぎを見て用いるなら、聖書は神にとって神聖なエコノミーの啓示であるように、わたしたちにとってもそうなるでしょう——ルカ 24:44-46。

II. 列王紀上、下は、歴史的な事実に関するものではなく、列王紀上、下における内在的な啓示に関するものです :

- A. ヨシュア記からエステル記までの記録にしたがった歴史の内在的な啓示は、神の永遠のエコノミーが、どのようにして地上で彼の選民によって遂行されたのかを、わたしたちに明らかにすることです——ヨシュア 1:1-9. サムエル上 16:12-13. 列王上 2:11-12. 6:1-2。
- B. 一見すると、列王紀上、下はイスラエルの王たちの歴史です。実は、列王紀上、下は神の霊の靈感の下で、神の永遠のエコノミーと関係がある方法で書かれました——エペソ 3:9. I テモテ 1:4。
- C. ダビデとソロモンは、予表として、イスラエルの王たちの歴史が神のエコノミーと関係があることの強力な証拠です。このエコノミーは、神の具体化としてのキリストと、キリストのからだとしての召会に関するものです——エペソ 5:32。
- D. ソロモンと彼が建てた宮は、イスラエルの歴史の中で強力な役割を果たし、このような歴史において広大な領域を占めているので、ソロモンと彼が建てた宮は旧

約において、予表の方法で、イスラエルの歴史が神の永遠のエコノミーを完成することと大いに関係があることの証拠です——ルカ 24:44 :

1. キリストと召会が神のエコノミーの中心性と普遍性であることは、新約と旧約の両方において普遍的です——マタイ 16:16-18。
 2. わたしたちは、歴史書が、キリストと召会に関する神の永遠のエコノミーの観点から書かれたことを見る必要があります——エペソ 5:32。
- E. わたしたちは列王紀上、下を読むとき、旧約の歴史書と新約との結び付きを見る必要があります。この結び付きは、キリストのため、またキリストのからだのための神のエコノミーです——エペソ 1:22-23. 3:17. 4:16。

III. 旧約の歴史は、予表の方法で神のエコノミーと密接な関係があります——エペソ 3:9.

I コリント 5:7. 10:6 :

- A. 旧約は神の永遠のエコノミーの、絵図であり、新約は神の永遠のエコノミーの、実際的な成就です。
- B. 創世記から申命記までの予表が明らかにしているのは、キリストの中に具体化された三一の神が、彼の永遠のエコノミーの中心また円周であるということ、またキリストが三一の神の選ばれた民の祝福またすべてであるということです——申 8:7-11。
- C. ヨシュア記からエステル記までの十二巻の歴史の書が明らかにしているのは、三一の神が彼の選ばれた民の中で行動して、彼らに彼の約束したすべてを含むキリストを良き地として所有させ、受け継がせ、享受させるということです——ヨシュア 1:1-9, 13. エステル 4:13-14。
- D. 詩の書（ヨブ記、詩篇、箴言、伝道の書、雅歌）が明らかにしているのは、キリストが、神の選びの民が追い求めるべき唯一の完全であり、また神の選びの民が獲得し享受すべき唯一の満足であるということです——ヨブ 42:1-5. 詩 2:6-12. 8:1. 雅 1:2-4. 6:1, 10, 13. 8:1, 14。
- E. イザヤ書からマラキ書までの十七巻の預言の書において、わたしたちが見るのは、三一の神が神・人となって、彼の完全な贖いを成し遂げて、彼の永遠のエコノミーを完成し、このエコノミーが新天新地において究極的に完成するという事です——イザヤ 9:6. 啓 21:1。
- F. マタイによる福音書からヨハネによる福音書までが明らかにしているのは、三一の神が手順を経て究極的に完成されて、すべてを含む、命を与える霊と成ったということです——ヨハネ 1:14. 7:39。
- G. 使徒行伝が明らかにしているのは、すべてを含む、命を与える霊がご自身を神の具体化であるキリストの実際として拡大して、神の諸召会を生み出すということです——使徒 1:3, 8. 2:22-36. 4:23-31。
- H. ローマ人への手紙から啓示録までが明らかにしているのは、すべてを含む、命を与える霊が、造り変えを通して諸召会を建造して、究極的に完成された三一の神

の有機体、すなわちキリストのからだとならせるということであり、このからだは新エルサレムにおいて究極的に完成して、究極的に完成された三一の神の永遠の拡大となります——ローマ 1:3-4. 12:4-5. 16:20. 啓 21:2, 9-11。

IV. 列王紀上、下における内在的な啓示は、予表を通して明らかにされ伝達されています：

- A. イスラエルの歴史は、召会全体の予表であるだけでなく、神のエコノミーの予表でもあります——I テモテ 1:4。
- B. イスラエルは、新約における神の選民としての召会を予表しています——I コリント 5:7. 10:6：
1. 神の意図は、団体的なからだを得ることです——エペソ 1:22-23：
 - a. イスラエルの国によって予表される、この団体的なからだのために、神はご自身を団体的なイスラエルの中へと造り込みました。それは、彼らが地上における神の家、神の住まいとなるためでした——出 25:8-9. 40:34。
 - b. この団体的なイスラエルは、キリストのからだとしての召会の予表です。
 2. イスラエルの歴史全体は、召会の予表です。パウロはイスラエルの子たちの歴史を新約の召会生活に適用しています——I コリント 5:7. 10:6。
 3. 旧約には一つの民、すなわちイスラエルがいて、新約にも一つの民、すなわち召会がいます。これら二つの民は、神が成した一つの事（神のエコノミーの完成）の記述です——エペソ 1:10. 3:9。
- C. ダビデは苦難を受けたキリストを予表します。ソロモンは神の王国とその光輝の中で栄光が現されたキリストを予表します——列王上 2:11-12。
- D. 宮は、宇宙における神の唯一の建造としてのキリストと召会を予表します——マタイ 12:6. 16:18。
- E. 預言者エリシャは、予表における神の新約エコノミーを表します。彼は旧約における予表であって、新約における実際のものを予表します——列王下 4:9。
- F. 最も憎むべき人であり、アハブの異教の妻であったイゼベルは、新約の実際においてイゼベルがだれであるかの予表です。すなわち、背教の召会の予表です——列王上 16:31. 19:1-2. 21:23. 啓 2:20-23。
- G. 予表において、王の宮殿と神の宮は別々のものでしたが、新約の実際において、これら二つは一つの建造です——列王上 9:15. エペソ 2:21-22：
1. 一方で、わたしたち新約の信者は祭司であって、神に仕え、神を礼拝します——I ペテロ 2:9。
 2. 他方で、わたしたちは神の王であって、神のために王として支配します——啓 1:6, 9. 5:10。
- H. 王たちは新約の信者たちの予表です。なぜなら、新約の信者はみな王となるために神によって救われているからです——啓 1:6, 9. 5:10：
1. 新約の信者たちは、神のエコノミーにおける王たちの予表の成就であるべきで

す——ローマ 5:17, 21。

2. 新約において、すべての信者は王また祭司となるために救われています—— I
ペテロ 2:9. 啓 1:6. 5:10. II テモテ 2:12 :

a. 神は支配しますが、直接、支配するものではありません。神は王としてのわた
したち信者を通して支配します——啓 20:4, 6. 3:21。

b. わたしたちは、神聖で、霊的で、天的で、王的で、王なる命をもって再生さ
れました。この命はわたしたちを座に着かせ、万物を、王として支配させま
す——ヨハネ 1:12-13. 3:3, 5. 啓 5:10. ローマ 5:17, 21。

V. 歴史書が聖書の中に置かれたのは、予表において、神のエコノミーの生き生きとし
た展望をわたしたちに与えるためです。旧約の予表の本質は、キリストと彼のから
だをその中心また実際とする神のエコノミーです——エペソ 1:9. 3:9. 5:32。